

「思う存分 楽しもう、ゆき組アスレチックワールド」指導計画案

題材名	思う存分 楽しもう、ゆき組アスレチックワールド		対象年齢	5歳児前半
遊びのプロセスの種類	遊びへの没頭			
	グラウンドでの障害物リレーコースづくりの体験から、段ボール等を使ったアスレチックコースの手作り障害物づくりと組み合わせて自分たちや他クラスの友達がその体力に合わせて存分に楽しめるアスレチックコースづくりにみんなで取り組む。			
時期	7月上旬～下旬			
ねらい	領域	<p>(健康) みんなが楽しめるアスレチックコースを考え、自分の体を理解するとともに十分に動かし、進んで楽しもうとする。</p> <p>(表現) 普段、運動遊び等で使っているものや素材の中から、アスレチックコースとして使えるものを選んだりつくり方を考えたり、組み合わせを試したりして、友達と協力してコースづくりに取り組む。</p> <p>(人間関係) 友達とコースづくりをする中で、より楽しめる手立てを見出しコース内の障害物の選択や組み合わせ方を工夫したり、協力したりする。</p>		
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	(健康な心と身体) アスレチックコースごっこを通して、自分なりに心と体を十分に働かせながら、みんなも充実感をもって楽しめるアスレチックコースづくりを楽しむ。			
	(思考力の芽生え) どうしたら面白いアスレチックコースになるかを、運動遊び等で使っているものの中から使えるものを選び、組み合わせ方を考え、実際に試しながら、みんなが楽しめるコースをつくる。			
	(協同性) 友達と一緒にチャレンジできるコースづくりを楽しく活動する中で、みんなにとって面白くするという共通の目的を見出し、障害物の選択したり、組み合わせ方を工夫したりして、仲間とコースを作りあげ、楽しみ共感するなど充実感を味わう。			
環境構成	場所・材料・用具名		配慮する視点	
材料用具	子ども	帽子・タオル、はさみ、クレヨン、園児机、園児用いす	・熱中症予防として、帽子やタオル等を用意するとともに、こまめに水分補給する機会と声掛けをする。	
	教師	段ボール、発泡スチロール、ガムテープ、巧技台、マルチパネル、エース棒、中庭の遊具等、水分(紙コップ)	・中庭の遊具に関しては、普段の使用の様子から、使ってよい物を選定しておくとともに、その使い方のルールを事前にしっかり伝えておく。	
場所	グラウンド(雨天時 遊戯室)		<p>・場の安全確認をする。</p> <p>・気温等に応じ、水分補給するよう声掛けをする。</p>	

環境構成(本時)



遊びのプロセス	主体的で対話的な深い学び(アクティブラーニング)の視点		
	子どもの活動(□)	教師の援助(●)と予想される遊びの姿(○・育ってほしい姿)	主になるごっこ遊びのオモシロサの5要素
【はじまり】	□今日はどのようにコースを作り上げるか思いを出し合う。	●実際に障害走コースを作った時の映像と、自分たちが考えたコースをくらべながらゆかいなアスレチックコースづくりを提案し、どんなコースを作りたいか、何で作るか意見を述べさせる。	(想定)
(遊びの創出)	□つくりたいコースや素材のアイデアを話し合う。 ・「びよんびよんへび」・・・縄跳び、ひも ・「おじゃまボックス・ブロック」・・・跳び箱、段ボール ・「コロコロ」・・・ボール、風船、段ボール ・「空中ぶらぶら」・・・うんてい、太鼓橋 ・「どっすん」・・・マルチパネル、段ボール ・「くるくるリング」・・・フープ、段ボール、ひも ・「ポイントコイン」・・・段ボール	○アスリートごっこの映像等をヒントに、自分が遊びたいコースをイメージし、そのイメージや作り方を友達と交流している。(思考・協同) ●個々の子どもがその発送を色々試せる材料・用具コーナーを設定し、知らせておく。 ○並べ方や組み合わせ方を色々試しながら、存分に楽しめるアスレチックコースを作ろうとしている。(思考)	(記録)
【展開】(遊びへの没頭)	□活動場所に移動し、遊具や製作材料を活用しながら友達とコース作りをする。 □実際にコースを使って遊びながら、もっとみんなが存分に楽しめるように、並べ方ややり方等を調整していく。 □みんなでアスレチックコースとして楽しめる、遊び方を相談し、それに必要なものを用意し、そのやり方で遊ぶ。	●一人で活動している子には、どんなコースを作っているのか聞き、みんなに知らせ、他者への興味が高まれば共に作るように促す。 ○障害物を試したり、友達と競ったりしながらアスレチックコースごっこを楽しむ。(健康・協同) ●「どうしたら、他のクラスのみんなが楽しめるかな」と呼び掛け、コースの改善の視点を共有させた上で、振り返りの話し合いを始め、2学期の「ちびっこ祭り」への意欲に繋げていく。 ○友達の話聞きながら、自分のアイデアをよりよいものにしようとしている。(思考・協同)	
【まとめと発展】(遊びの振り返り)	□面白かったことや気付いたこと、うまくいなくて工夫したことなどを振り返り、次の活動でどのようにしたらよりみんなが楽しめるかを話し合う。		
評価	領域	(健康) みんなが楽しめるアスレチックコースを考え、自分の体を理解するとともに十分に動かし、進んで運動しようとしている。 (環境) 普段、運動遊び等で使っているものの中から、障害物として使えるものを考えたりしてアスレチックコースづくりに取り入れようとしている。 (人間関係) 友達とコースづくりを楽しく活動する中で、みんなにとって面白くするという共通の目的を見出し、障害物の選択や組み合わせ方を工夫したり、協力したりしている。	
	幼児期の終わりまでに育てたい姿	(健康な心と身体) みんなと一緒に走ることを楽しむ。遊具から別の遊具までを走ったり、障害物を乗り越えながらコースに沿って走る楽しさを知る。グラウンドや中庭など、広い空間の中で走る気持ち良さを感じている。	
		(思考力の芽生え) どうしたら面白いアスレチックコースになるか、運動遊び等で使っているものの中から使えるものを選び、組み合わせ方を考え、実際に試しながら、みんなが楽しめるコースをつくらせている。	
	(協同性) 友達と一緒にチャレンジできるコースづくりを楽しく活動する中で、みんなにとって面白くするという共通の目的を見出し、障害物の選択したり、組み合わせ方を工夫したりして、仲間とコースを作りあげ、楽しむ充実感を味わっている。		

(メモ) ・気づき (●教師 ○子ども) ■手だてと工夫 △改善点(振り返り)



■アスリートごっこの動画や自分で描いたコース図を用意することで、本時のごっこ遊びのイメージを共有しやすくする。
○紙で作ったコースに自分達の写真をのせて遊び、楽しんだことによりコース作りのイメージを膨らませていた。



○運動タイムの講師にアスリートの動きを見せてもらい、「高く、すばしっこく動きたい」というあこがれを抱いていた。

■アスリートの動きとともに「とぶ」「乗り越える」「くぐる」「つく・転がす」等の動きを示す言葉をキーワードに、作る障害物の形や大きさをイメージさせるようにする。

■他クラスも興味を持って参加できるように、見に来た子には積極的に声を掛けていき、遊び方等を一緒に活動していく。

